

## 当センター血液浄化室におけるプロアクティブ保全(PRM)導入とその有用性・問題点

<sup>1)</sup>東京女子医科大学東医療センター ME室 <sup>2)</sup>同内科

○檜垣洋平<sup>1)</sup> 芝田正道<sup>1)</sup> 中山友子<sup>1)</sup> 近藤敦子<sup>1)</sup> 吉田真理<sup>1)</sup> 豊見山真智子<sup>1)</sup> 中野清治<sup>1)</sup>

樋口千恵子<sup>2)</sup> 佐中孜<sup>2)</sup>

【背景および目的】透析装置において、装置配管内からの液漏れは、時としてポンプ類や電磁弁などの腐食による故障となり、結果メンテナンス費用の増大となることもある。液漏れの量が多い場合は、比較的早期発見が可能であるが、少量の場合早期発見は難しい。そこで、液漏れの早期発見と清掃を目的としたプロアクティブ保全(以下 PRM)の導入を試みたので、報告する。

【方法】2009年8月より二ヶ月に1回のペースで個人用・多人数用透析機器、多人数用透析液供給装置、RO水精製装置、A・B粉溶解装置の計28台についてPRMを行った。

PRMの内容は目視による点検および清掃とした。

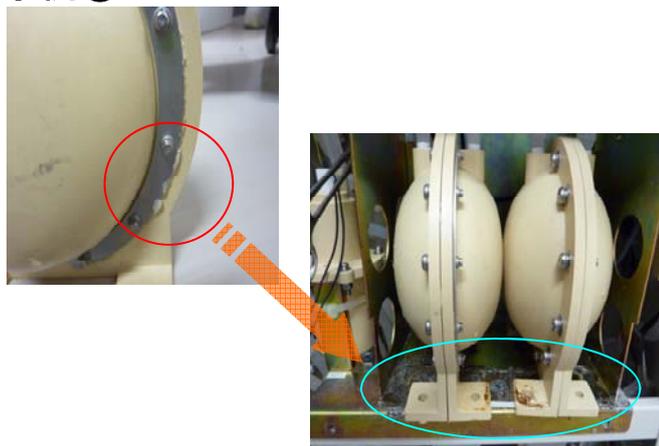
【結果】これまでに2回のPRMを行った結果、25% (14/56件) で何らかの異常が確認できた。異常の内訳は、配管からの液漏れによる金属部の腐食、除水ポンプとの摩擦によるシリコンチューブの擦り切れなどであった。

【考察・結語】当センターにおいては、施行回数が少ないもののPRMは液漏れなどによる腐食や故障を未然に防止するのに有用であり、余計な部品交換を抑制できコスト削減につながるものと思われた。しかし、過剰なメンテナンスは故障の原因となり得ることも報告されており、PRMの適正な施行頻度やメンテナンスの程度については検討課題である。また、装置配管内の点検が定期的・日常的に実施しやすくするためや、装置パネルの開閉による配管チューブや配線等を破損させないようにするなどの作業性についても工夫する必要がある。

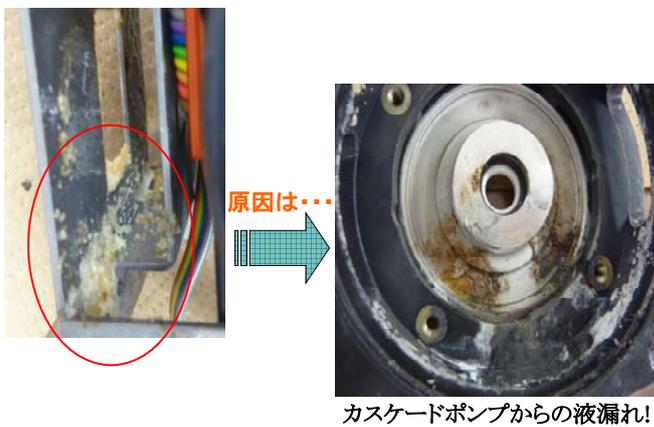
### 事例①



### 事例②



### 事例③



原因は...

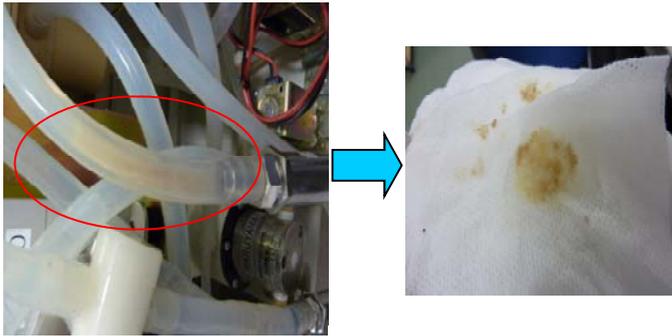
カスケードポンプからの液漏れ!

### 事例④



シリコンチューブの擦り切れ!

### 事例⑤



### 事例⑥

